

お知らせ

<同時資料提供先> 島根県政記者会

令和5年12月21日

【E9】山陰道 ^{おおだ}大田・^{しずま}静間道路、^{しずま}静間・^{にま}仁摩道路【延長12.9km】 (^{おおだちゅうおう}大田中央・^{さんべさん}三瓶山IC～^{にま}仁摩・^{いわみ きんざん}石見銀山IC間) 令和6年3月9日(土)に開通します

【E9】大田・静間道路（延長5.0km）と静間・仁摩道路（延長7.9km）の延長12.9kmについて、令和6年3月9日(土)に開通することになりましたのでお知らせします。

開通に先立ち、新たに設けるインターチェンジ(IC)の名称が正式に決定しましたのでお知らせします。

■今回の開通により期待される効果

- ①主要都市間の所要時間の短縮(10分短縮)
- ②ダブルネットワークによる緊急時の信頼性確保
- ③第三次救急医療機関への救急搬送活動の支援
- ④道の駅ごいせ仁摩を拠点とした周遊観光の促進
- ⑤アナゴの出荷エリア拡大
- ⑥企業活動と企業立地の支援

■インターチェンジ(IC)名称

決定したインターチェンジ(IC)名称	所在地	これまで使用していた インターチェンジ(IC)名称(仮称)
^{おおだ} ^{しずま} 大田静間	^{しまね} ^{おおだ} ^{しずま} 島根県大田市静間町	^{しず} ^ま 静間

※開通式および通行可能時間については、詳細が決まり次第あらためてお知らせします。

問い合わせ先	国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所
	副所長(改築) ^{あべ まなぶ} 安部 学 (内線 204)
(広報担当)	計画課長 ^{やまもと かつとし} 山本 活稔 (内線 261)
	TEL: (0852) 60-1345 (計画課 直通) : (0852) 26-0611 (夜間・休日)
	URL: https://www.cgr.mlit.go.jp/matsukoku/

※松江国道事務所では、X(旧Twitter)による情報発信を行っています。

X: https://twitter.com/road_matsue

※道路の異状を発見したら、道路緊急ダイヤル 緊急通報#9910へ



松江国道事務所
HP



松江国道事務所
X(旧Twitter)

事業の概要（大田・静間道路、静間・仁摩道路）

- 山陰道（出雲～仁摩間）は、緊急時の代替路線の確保、現道の隘路区間の解消、観光・医療・物流活動の支援、地域間広域交流の促進及び地域活性化等を目的とした延長37.1kmの事業です。
- 平成30年3月に朝山・大田道路、平成31年3月に多伎・朝山道路が開通しています。
- **今回、大田・静間道路の延長5.0kmと静間・仁摩道路の延長7.9kmが令和6年3月9日（土）に開通**します。

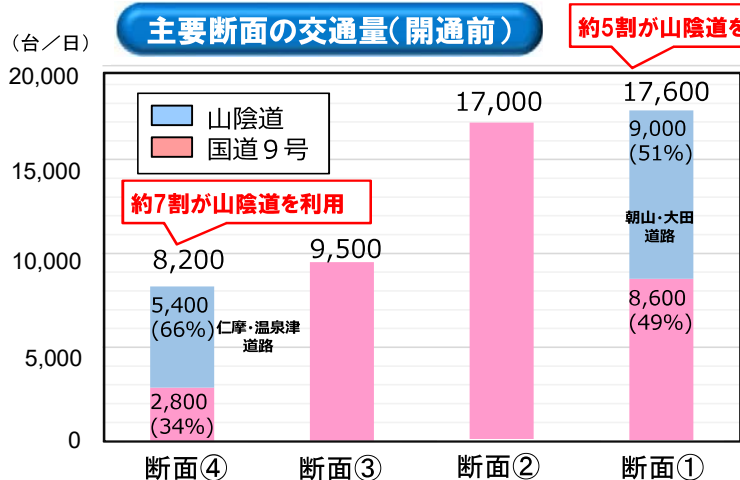


事業概要

	おおだ しずま 大田・静間道路	しずま にま 静間・仁摩道路
起終点 上段：起点 下段：終点	おおだ くてちょう さつか 大田市久手町刺鹿 おおだ しずまちょう 大田市静間町	おおだ しずまちょう 大田市静間町 おおだ にまちょう おおくに 大田市仁摩町大國
延長	5.0km	7.9km
道路の規格	第1種第3級	
設計速度	80km/h	
車線数	暫定2車線	

整備効果 ① 主要都市間の所要時間の短縮

● 東西に長い島根県は、東西主要都市間（島根県庁～浜田市）の移動に時間を要しています。山陰道が整備されることで移動時間が短縮され、人流、物流、産業、観光等の様々な分野での交流活性化が期待されています。



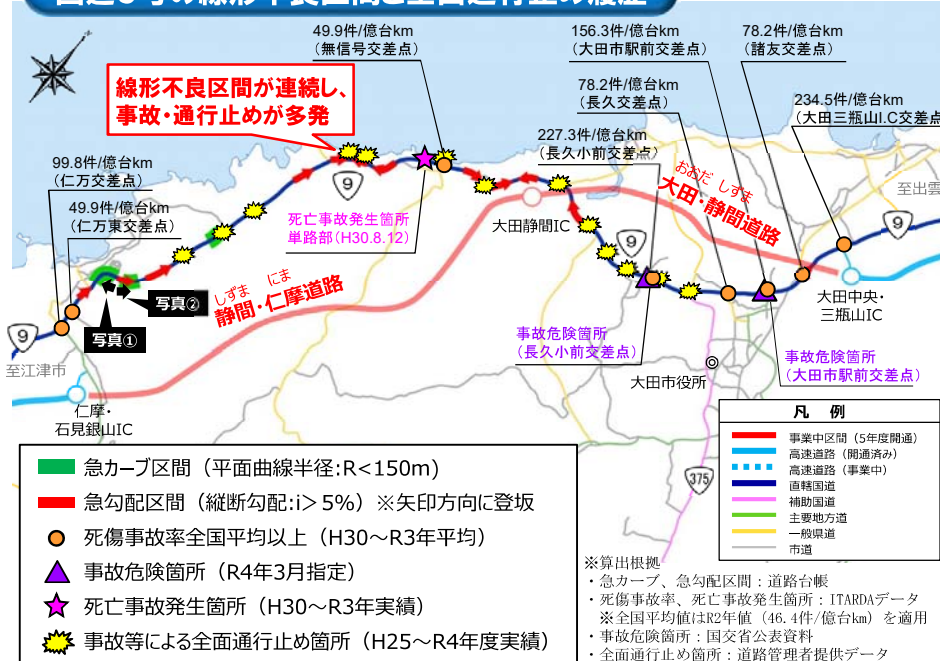
資料：国道9号は交通実態調査（R5年9月27日（水））
山陰道は常設トラカンによる観測値（R5年10月4日（水））

※算出根拠
山陰道（大田・静間道路、静間・仁摩道路）はV=70km/hとして算出。その他道路は、R3全国道路・街路交通情勢調査の混雑時平均旅行速度より算出。

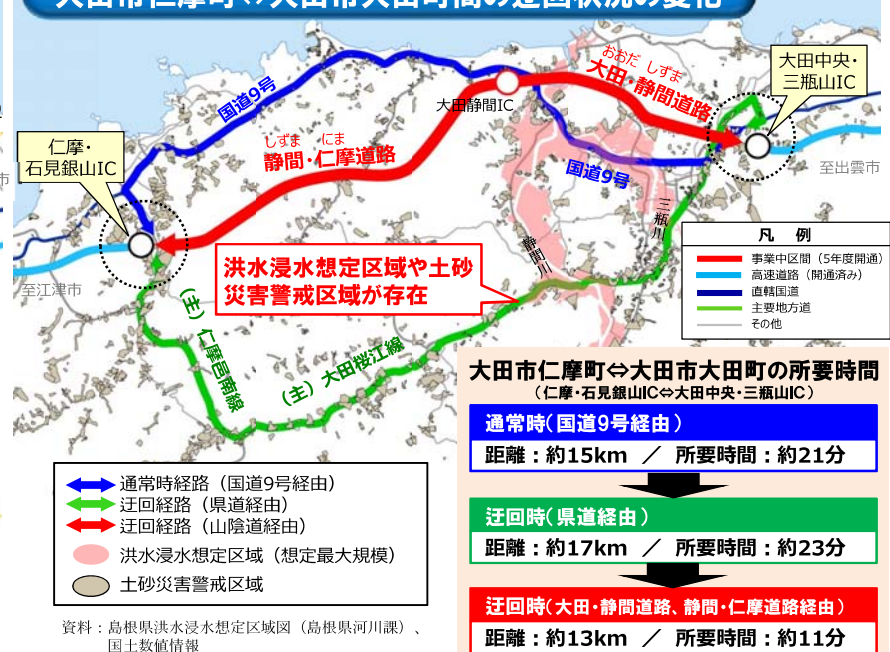
整備効果 ②ダブルネットワークによる緊急時の信頼性確保

- 大田・静間道路、静間・仁摩道路に並行する国道9号では、死傷事故率が全国平均を超過する交差点、事故危険箇所、急カーブや急勾配などの道路構造に課題のある区間が連続しています。
- 国道9号通行止め時に迂回路として機能する県道には、洪水浸水、土砂災害等の防災面での課題が存在します。
- 大田・静間道路、静間・仁摩道路の開通により、国道9号の危険箇所を回避し、信頼性の高い道路網が確保されます。

国道9号の線形不良区間と全面通行止め履歴



大田市仁摩町⇔大田市大田町間の迂回状況の変化



大田市仁摩町⇔大田市大田町の所要時間 (仁摩・石見銀山IC⇔大田中央・三瓶山IC)

通常時(国道9号経由)
距離：約15km / 所要時間：約21分
迂回時(県道経由)
距離：約17km / 所要時間：約23分
迂回時(大田・静間道路、静間・仁摩道路経由)
距離：約13km / 所要時間：約11分

国道9号の線形不良区間



<道路利用者の声>

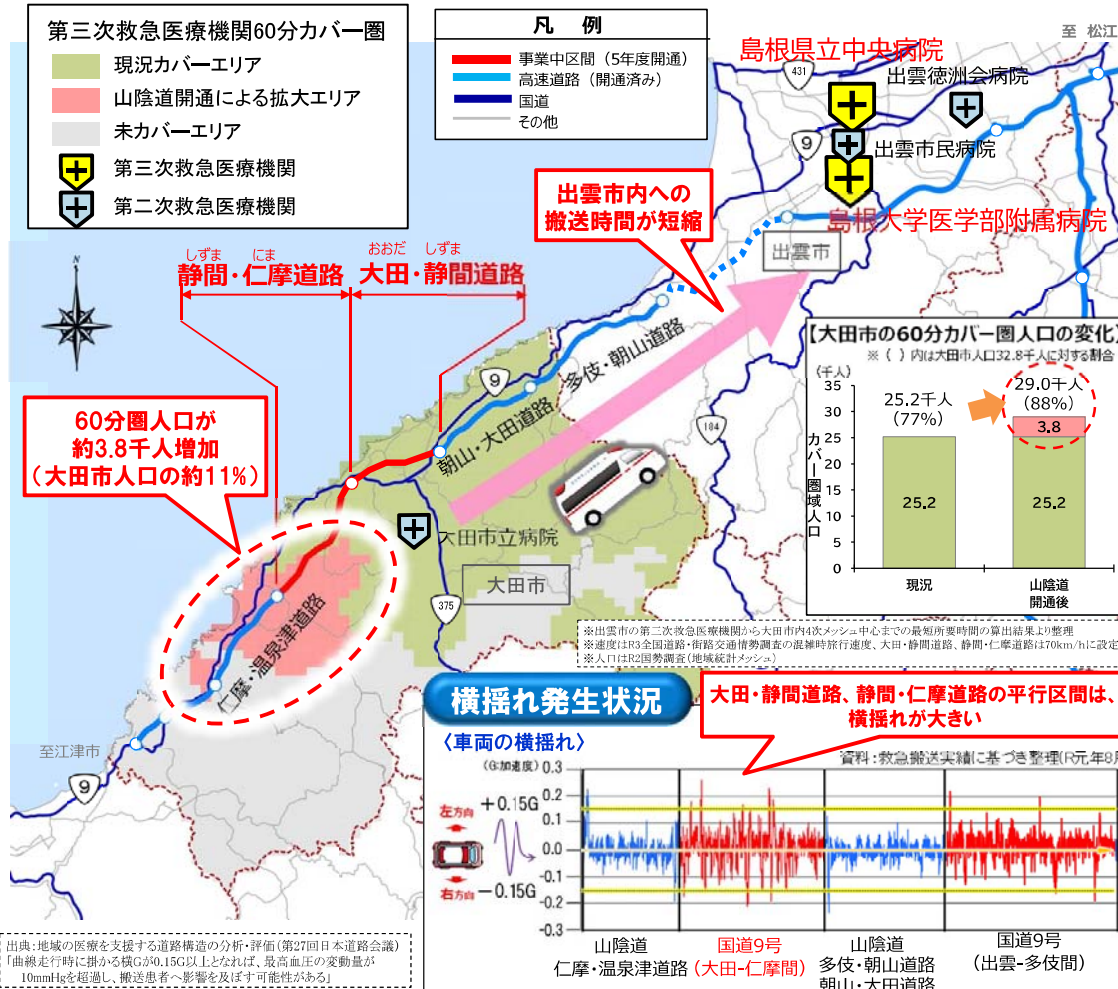
- 国道9号の迂回路として県道等を利用する場合、トラックが迂回路として通行困難な狭い区間もあるが、山陰道が開通すると、緊急時でも山陰道と国道9号のダブルネットワークが構築され安心する。(R5年9月 島根県素材流通組合ヒアリング)
- アクセスルートが国道9号しかないことで、災害による通行止めにより通行が困難になるという不安があったが、山陰道整備により解消され、安定した物流が確保される。(R4年11月 浜田港関係者ヒアリング)



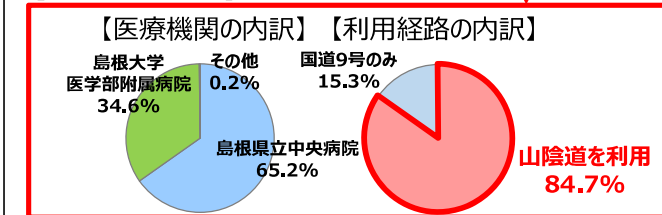
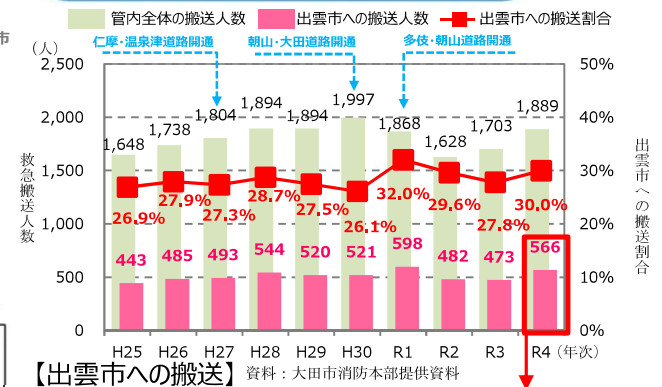
整備効果 ③第三次救急医療機関への救急搬送活動の支援

- 大田市には第三次救急医療機関がないことから、重篤疾患の患者等は出雲市中心部の第三次救急医療機関に搬送する必要があり、搬送時間や搬送時の横揺れ等が患者への負担となっています。
- 大田・静間道路、静間・仁摩道路の開通により、出雲市方面への搬送時間が短縮し、第三次救急医療機関の60分カバー圏人口が増加するほか、スムーズな移動により患者への負担も軽減する等、救急搬送活動の支援が期待されます。

第三次救急医療機関の60分カバー圏の変化



大田市消防本部の救急搬送状況



<消防の声>

- 国道9号の現道は、急勾配や急カーブ、追越困難箇所、路面の凹凸、積雪時に凍結で走行しにくい箇所があり、救急搬送時において課題となっている。また、迂回路はあるが長距離となっている。
 - 山陰道の整備により、医療機関への搬送、現場到着までの時間短縮が見込める。
 - 急カーブの通行を避けられるため、救急車内の救命処置が安定的にできる。
- (R5年7月 大田市消防本部ヒアリング)



整備効果 ④道の駅ごいせ仁摩を拠点とした周遊観光の促進

- 大田市には、三瓶山や世界遺産石見銀山等の観光資源が多くあり、休日には多くの来訪者で賑わっています。令和4年1月には、仁摩・石見銀山ICの近くに道の駅ごいせ仁摩がオープンし、石見銀山への玄関口としての機能を期待されています。
- 大田・静間道路、静間・仁摩道路の開通により、道の駅ごいせ仁摩を拠点として、大田市内観光地へのさらなる周遊促進が期待されます。

道の駅ごいせ仁摩と周辺の観光施設



道の駅ごいせ仁摩がオープン

大田市内の周遊観光の拠点として、山陰道「仁摩・石見銀山IC」の直近にオープン（2022年1月29日）。

▼開通記念式典

▼観光案内所：観光拠点

資料：大田市観光サイト



資料：大田市HP



【整備計画の基本テーマ】

- ①世界遺産石見銀山遺跡の玄関口、観光案内の拠点
- ②山陰道のサービスエリアの代替施設
- ③地元製品の販売や食の提供による産業振興
- ④市民・事業者の参画・利用による地域活性化

資料：仁摩道の駅（仮称）整備計画（大田市H28.3）

道の駅ごいせ仁摩のイベント等

▼イベントステージでの神楽



資料：大田市観光協会HP

▼物販エリアのにぎわい



資料：道の駅ごいせ仁摩HP

＜道の駅駅長の声＞

○山陰道が全通した場合は、周辺の観光地とも連携し、より多くの方の利用を期待している。

（R5年9月 道の駅駅長ヒアリング）



＜道の駅利用者の声＞

○山陰道の開通で、山陰方面への旅行行程の範囲が広がり、旅行機会が増えると思う。道路整備に感謝する。

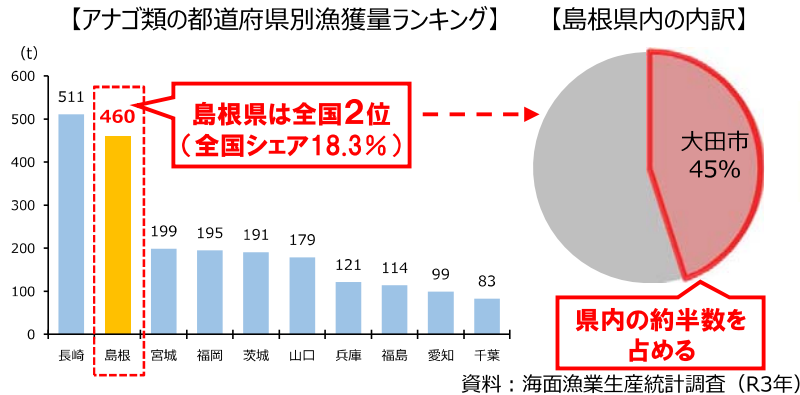
（R5年11月 観光アンケート調査結果）



整備効果 ⑤ アナゴの出荷エリア拡大

- 大田市のアナゴ漁獲量は全国有数であり、地域でもアナゴのブランド化を行っており、さらなる消費拡大が期待されています。
- 大田市のアナゴの約9割が関西・関東等の遠方に陸送により出荷されており、大田・静岡道路、静岡・仁摩道路の開通により、輸送時間が短縮されることで、アナゴの鮮度確保や出荷エリアの拡大が期待されます。

島根県のアナゴ漁獲量(R3年実績)



「大田の大あなご」のPR

- 〈ブランド化の主な取り組み内容〉
- ⇒大あなご料理店提供パンフレットの作成
- ⇒「大田の大あなご」紹介パンフレットの作成
- ⇒YouTubeでの「大田の大あなご」紹介
- ⇒大田市産アナゴの成分分析レポートのHP掲載



資料：大田市観光サイト

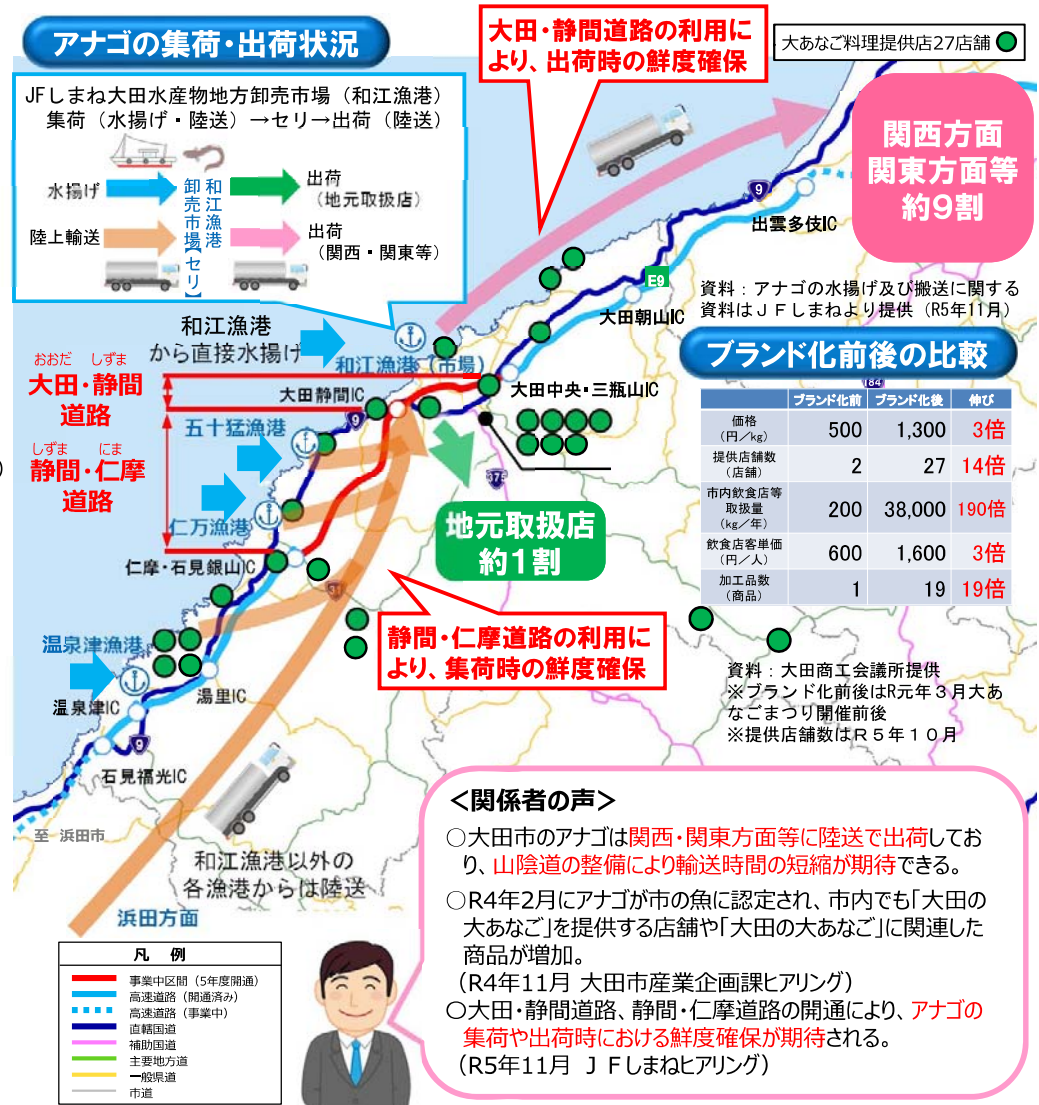
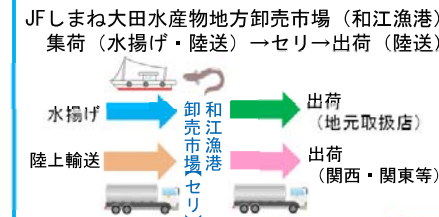


▲大あなご料理店提供パンフレット

▲YouTubeでの紹介

資料：大田市HP (産業企画課)

アナゴの集荷・出荷状況



ブランド化前後の比較

	ブランド化前	ブランド化後	伸び
価格 (円/kg)	500	1,300	3倍
提供店舗数 (店舗)	2	27	14倍
市内飲食店等取扱量 (kg/年)	200	38,000	190倍
飲食店客単価 (円/人)	600	1,600	3倍
加工品数 (商品)	1	19	19倍

資料：大田商工会議所提供
※ブランド化前後はR元年3月大あなごまつり開催前後
※提供店舗数はR5年10月

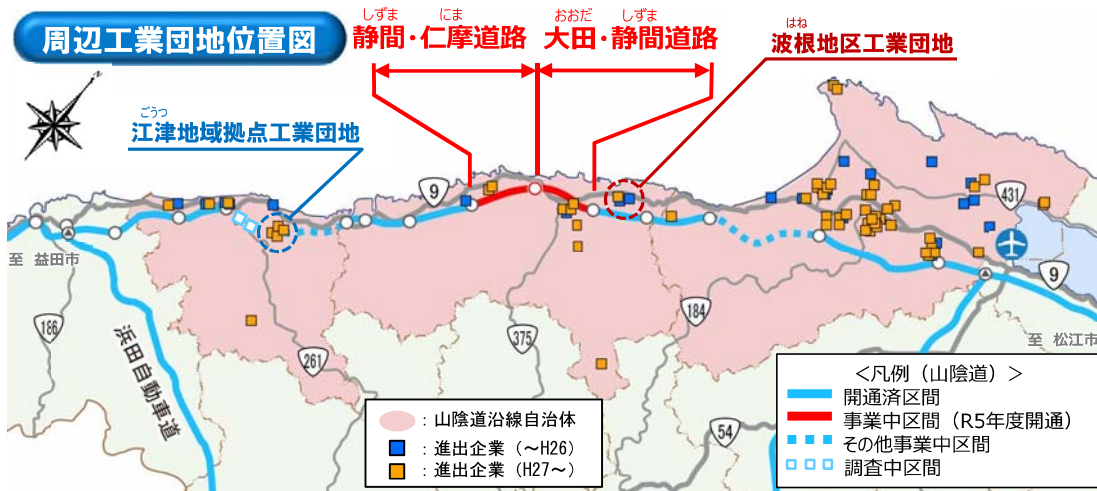
〈関係者の声〉

- 大田市のアナゴは関西・関東方面等に陸送で出荷しており、山陰道の整備により輸送時間の短縮が期待できる。
- R4年2月にアナゴが市の魚に認定され、市内でも「大田の大あなご」を提供する店舗や「大田の大あなご」に関連した商品が増加。(R4年11月 大田市産業企画課ヒアリング)
- 大田・静岡道路、静岡・仁摩道路の開通により、アナゴの集荷や出荷時における鮮度確保が期待される。(R5年11月 JFしまねヒアリング)



整備効果 ⑥ 企業活動と企業立地の支援

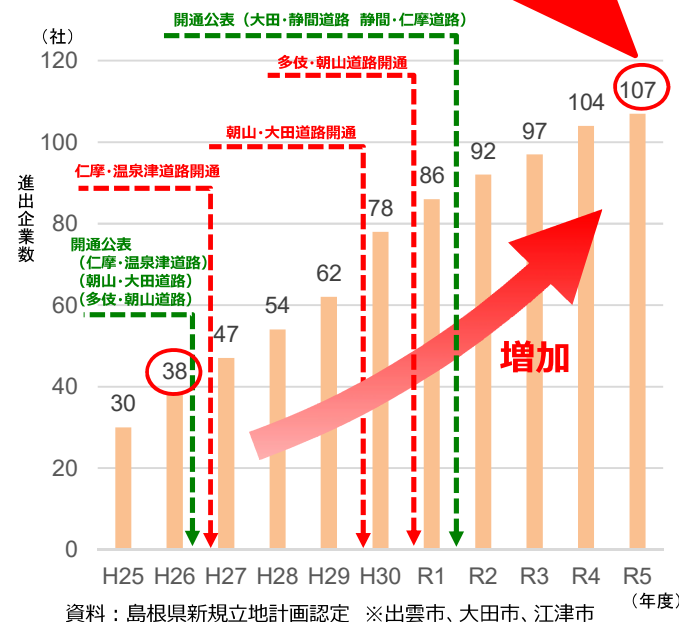
- 大田・静間道路、静間・仁摩道路を含む山陰道の沿線には、波根地区工業団地、江津地域拠点工業団地が立地しており、山陰道の開通情報の公表以降、工業団地への企業進出が進んでいます。
- 大田・静間道路、静間・仁摩道路の開通による時間短縮効果により、物流及び企業の生産活動の効率化が期待されるとともに、追加造成を進める江津地域拠点工業団地への企業立地等も期待されます。



山陰道沿線※の企業進出状況

山陰道の開通公表後、一部区間が開通してから、企業の進出が大きく増加。

H26年度の開通公表後、新設・増設69社増加



江津地域拠点工業団地

新規の立地企業が増加。需要の拡大により、R6年度以降より追加造成予定。



資料：江津地域拠点工業団地パンフレット、各企業HP

波根地区工業団地

電子機器メーカーがR4年3月から新生産棟増設を開始、R5年4月に増設完了。



資料：島根県HP

<波根地区工業団地 立地企業の声>

○山陰道のインターチェンジが近いこと、山陰道と国道9号により道路が二重化することで、企業活動でのリスク回避につながることも、立地決定の一因となった。

○通行止め時は、道路が寸断されて出荷ができなくなるので、山陰道があれば迂回路として有効となる。
(R5年11月 立地企業ヒアリング)

